

海の森水上競技場の施設運営について



※この図は、基本設計時における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会時の施設イメージであり、今後変更する場合があります。

1. 建設予定地の概要・周辺図



立地条件

所在地

○江東区青海三丁目地先

周辺土地利用

- 物流施設や環境関連施設が立地
- 中央防波堤内側埋立地において、海上公園である「海の森公園（仮称）」が整備中
- 中央防波堤外側と若洲と結ぶ「東京ゲートブリッジ」が開通

交通アクセス

- 東京臨海新交通臨海線ゆりかもめ「テレコムセンター」駅から都営バスで約8分、「環境局中防合同庁舎前」バス停下車
- 東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」駅から都営バスで約15分、「環境局中防合同庁舎前」バス停下車
- 第二航路海底トンネル（江東区青海）、臨海トンネル（大田区城南島）、ゲートブリッジ（江東区若洲）、南北線（江東区有明、整備中）から車でアクセス

所有の状況

○土地は所有・管理とも東京都

上位計画等

- （上位計画）
- 東京都長期ビジョン（平成26年12月策定）
 - 東京港第8次改訂港湾計画（平成26年11月改訂）
 - 海の森（仮称）構想 答申（平成17年2月）

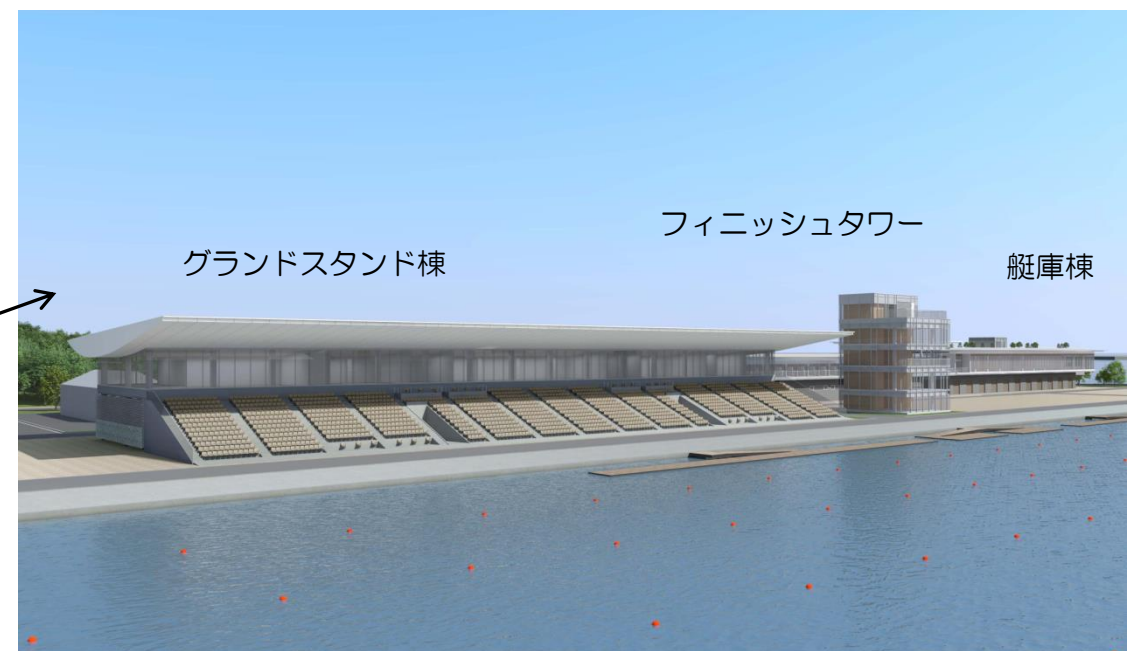
- （その他関係法令等）
- 「都市計画法」「建築基準法」「東京都海上公園条例」など
 - 計画地は、市街化調整区域

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

2.施設内容

施設の概要

計画地面積	約79ha（水域を含む）	
競技コース	規模	2,000m×8レーン
グランドスタンド棟 （2階建て）	規模	5,613.12㎡
	内容	観客席 約2,000席（車椅子使用者席（同伴者席併設）を約1%確保） 倉庫、オフィス、ラウンジなど
艇庫棟 （2階建て）	規模	5,977.09㎡
	内容	宿泊施設、艇庫、レストラン、会議室など
その他	○フィニッシュタワー（5階建て）	
	○計時小屋	
	○水門など	



※施設内容については、アクセシビリティ・ガイドラインを踏まえ設計していきます。
※この内容は現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

3. 事業内容（例）

1 最高峰の水上競技大会の会場・競技力向上の場として活用

- ボート・カヌー・ドラゴンボート、トライアスロンなどの国際大会（世界選手権・アジア選手権など）の実施
- 国内大会（全日本選手権など）の実施
- 国内選手の強化・育成の拠点等として活用



国営木曾三川公園



国営木曾三川公園



ドラゴンボート

2 青少年へのスポーツ教育・環境教育の場として活用

- 青少年を対象とした、水上スポーツ体験・スポーツ教育の実施
- 海の森公園（仮称）の森づくり、環境関連施設等と連携した環境学習の実施



環境教育プログラム『プロジェクト・ワイルド』



環境教育プログラム『プロジェクト・ワイルド』



環境教育プログラム『プロジェクト・ワイルド』

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

3. 事業内容（例）

3 多様なスポーツに親しめる機会を創出

- サイクリングやサッカー、屋外ヨガのほか、ランニング、スタンドアップパドルボードなどアウトドアスポーツの実施



国営昭和記念公園



雁の巣レクリエーションセンター



浜名湖ガーデンパーク



4 様々な人が集い訪れる賑わいの拠点として活用

- イルミネーションなどによる冬季の利用促進
- 市民参加型のアートイベントやフードイベントの開催
- 企業研修やセミナーなどの誘致



国営昭和記念公園



国営昭和記念公園



浜名湖ガーデンパーク



※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

4. 事業実施場所（例）

競技水面や施設エリアに加え後利用エリアにおける事業を検討し、一般利用を促進するなど、施設の有効活用を図ります。

競技コース



国営木曾三川園

【競技利用】

- ボート・カヌー（スプリント）
- ・ドラゴンボート・トライアスロン
- ・ 競技大会、競技練習
 - 団体貸切
 - 個人利用

【レクリエーション利用】

- 水上スポーツ体験

施設

【グランドスタンド棟】

- 観客席（大会時）
- 諸室の活用（スタジオ、ラウンジ等）

【艇庫棟】

- 宿泊室、艇庫
- 諸室等の活用（会議室、レストラン等）



屋内ヨガ

SUGATA鎌倉



レストラン

国営昭和記念公園

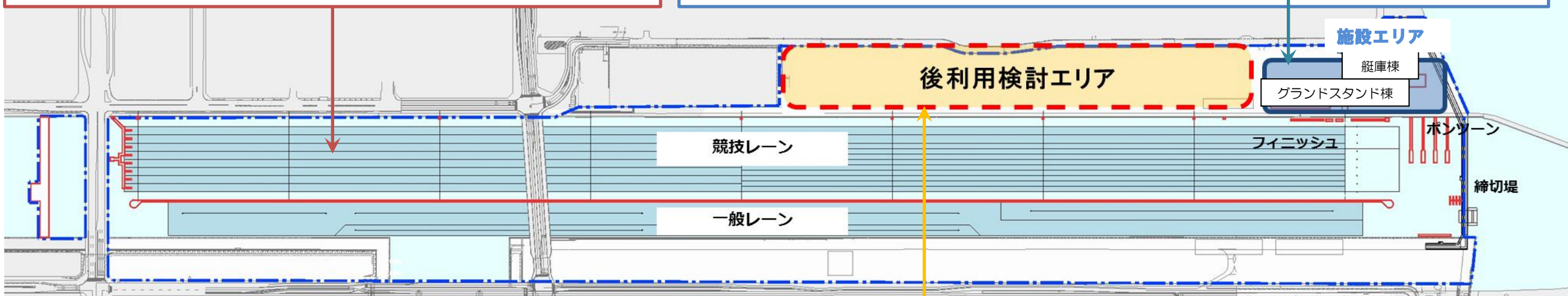


宿泊室



艇庫

国営木曾三川園



【後利用検討エリア】

イベント広場、グラウンド、駐車スペース（イベント時・通常時）
団体用艇庫（競技団体等のニーズを踏まえ今後調整）など

※整備内容や事業スキームなど具体的な内容を今後検討

グラウンドの例



国営昭和記念公園

イルミネーションの例



国営昭和記念公園

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

5. 青少年教育との連携（例）

青少年教育との連携により、大会に向けた気運醸成、心身の健全育成、競技人口の裾野の拡大を目指します。

- 1 大会時の景観・雰囲気づくり（2020年大会に向けて）
- 2 都内の青少年を対象としたボート・カヌー等の体験教室、環境学習の実施（後利用時）
- 3 地方からの学生選手・見学者の受け入れ（後利用時）



国営昭和記念公園



国営木曾三川園

※この内容は現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

6. 周辺地域との連携

○ 大会後の海の森水上競技場は、隣接する海の森公園（仮称）と連携した水と緑のネットワークの拠点として、自然を享受し、水辺に親しめる憩いの場としていきます。

【連携による効果】 利用案内の効率化、施設間の相互利用、効果的な事業展開 等

海の森水上競技場と海の森公園（仮称）連携イメージ

水と緑の
ネットワーク

海の森公園（仮称）
（森ゾーン）

連携のイメージ

- ・利用案内・情報提供の効率化
- ・駐車場・宿泊施設・飲食施設の相互利用
- ・連続性のあるサイクリング・ランニングコース・散策通路 等

海の森水上競技場（海ゾーン）

* 海の森公園（仮称）のコンセプトや海の森倶楽部(注)の活動の現状なども踏まえつつ、今後、連携のあり方について具体的に検討

(注)海の森について、広く国内外に情報発信するとともに、多様で魅力的な行催事や樹林地等の育成管理の機会を広く都民に提供し、都民サービスの向上を図る団体

※この内容は現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

7. 大会後の交通アクセス検討イメージ

大会後の海の森水上競技場へのアクセス改善を図るため、車や都営バス、舟運など多様なアクセス手段を今後具体的に検討

現状

- 「東京レポート」駅下車
⇒ 都営バス「環境局中防合同庁舎」(約15分)
⇒ 徒歩で競技施設へ
- 「テレコムセンター」駅下車
⇒ 都営バス「環境局中防合同庁舎」(約8分)
⇒ 徒歩で競技施設へ

今後の検討

- ・マイカー
⇒ 駐車場の整備
- ・バス
⇒ 都営バスの活用
イベント時のシャトルバス運行
- ・舟運
⇒ 活用の可能性



水上競技の振興と賑わいの創出

- ボートやカヌーも含めた様々な水上競技の利用の可能性
- 施設の有効活用
陸域部分の活用、平日の利用促進など
- 海の森公園（仮称）など様々な周辺施設との連携
- 施設運営にあたり考慮すべき事項
 - ・大会開催や練習など施設利用の優先度
 - ・ランニングコストや類似施設を参考に適正な料金を設定